

7 No.	大学名	プロジェクト名
	佛教大学	京都ジョブパーククラス 「京都ジョブパーク」のあり方とは？

参加学生 (登壇者★)	★ 大橋 正俊 (社会学部) 3回生 ・ 阪部 優一 (社会学部) 3回生 ・ 梶村 陸公 (社会学部) 3回生 ・ 黒田 悠生 (社会学部) 3回生 ・ 丹羽 由愛雅 (社会学部) 3回生 ・ 野本 陸 (社会学部) 3回生 ・ 森 海歌 (社会学部) 3回生	連携先からの ミッション	①コロナ前後で変わる事・変わらないこと ②今後のインターシップ・就職活動のあり方は？ ③産学連携の中での自治体(京都府)が運営する学生就職支援機関の役割は？
活動期間	2020年8月 ~ 2021年2月	受け入れ先 団体・企業名	京都ジョブパーク

ミッションへ取り組み概要 (自由記述, 図表・画像挿入可)

1.問題意識

京都府からの人口流出が多いという課題に対して、学生ならではの視点から見る「京都ジョブパーク」のあるべき形とはどのような形かを明らかにしていく。

2.「京都ジョブパーク」について

正規雇用を目指す京都府民の方に就職活動や中小企業の人材確保をサポートする施設。相談から就職・職場への定着まで無料でワンストップサポートを実施している。



「京都ジョブパーク」との議論の様子

3.活動

アンケート調査や過去のデータから、「京都ジョブパーク」学生就職センターとのディスカッションを通して課題を明らかにしていく。

4.考察

- 「京都ジョブパーク」は認知度が圧倒的に低く、京都府に多く存在する優良な中小企業が認知されていない。
- 新型コロナウイルスの影響で、企業側・学生側ともに雇用情勢に対して不安がある。
- 京都府は学生が多いが、府内で就職する学生は非常に少ない。



Instagramを利用したアンケート調査

5.提案

- 「京都ジョブパーク」の各種サービスの向上
- 中小企業博覧会
- 女性の働く意識改善企画

6.まとめ

「京都ジョブパーク」が学生に寄り添った形にすることで、京都府の社会的問題解決に繋がる。なぜなら、「京都ジョブパーク」のサービス向上で、学生利用者が増加し、京都府の中小企業に関心を持つ学生が増えることで「府内の学生人口流出減少・中小企業の人材不足緩和」になると考えられるからである。



チームの活動風景

ミッションに取り組む中で社会的課題として見えてきたこと (ミッションと深く関わる社会的な課題)

①新型コロナウイルスの影響による雇用情勢の大きな変化

→面接などのオンライン化への対応や企業の雇用体制など

②京都からの人口流出

→京都の中小企業を知る機会の少なさ

③中小企業の人材不足

→京都府の学生の流出から影響を受けている